

私ほそだ伸一が重要政策項目の一つと位置づけている「福祉」の分野から、今回は市川市におけるバリアフリー(※1)と、オストメイト(※2)対応トイレについてのデータをご紹介します。

車いす

標準基準では、車いす席の比率はオリンピック会場で0.75%、パラリンピック会場で1.0%、車いす競技会場では1.2%に設定されています。すでに建造から52年が経過し老朽化が進んでいる武道館を例にとりますと、全1万3243席のうち車いす席は10席(0.08%)しかありません。そういう意味では、武道館のバリアフリーは基準からは程遠い状態となっております。

本市では、駅や病院など公共性の高い市内施設約90箇所では、車いす用のスロープが66箇所(以下、普及率として74.2%)、車いす対応のエレベーター設置は57箇所(72.2%)となっており、市内16箇所の公民館ではスロープ12館(81.3%)、エレベーター11館(73.3%)となっています。

トイレ

また、障害のある方に対応したトイレの設置状況は、車いす対応のトイレの設置79箇所(88.8%)、オストメイト対応のトイレの設置30箇所(33.7%)となっており、公民館については車いす対応のトイレの設置が12館(75%)、オストメイト対応のトイレが4館(25%)となっています。

交通機関での普及状況

市川市には鉄道駅が16駅あり、平均利用者数3,000人/日以上以上の駅が15駅あります。そのうち86.6%にあたる13駅に段差解消としてエレベーターが設置されております。また京成バス市川営業所、京成トランジットバス塩浜営業所内ではバリアフリー化は100%となっていますが、ノンステップバスについては67.8%の普及率になっています。なお、オストメイト対応トイレについては、本市内16の鉄道駅のうち京成電鉄の菅野駅、鬼越駅、北総鉄道の大町駅を除く13駅(81%)に設置されています。

以上を見ても、本市におけるバリアフリーはそこそこ普及しつつあるといえそうですが、完全ではないため早急な整備が必要です。一方オストメイト対応トイレの普及率は、現在設置を急いでいるところではあるものの、トイレの形式や設置場所などにバラつきがあり、対象者にとっての使用勝手はまだまだ不十分な状態です。そもそも福祉(英語でWelfare)とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉であり、すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという理念を指すわけですから、行政の杓子定規で物事を決めずにぜひ当事者の意見を汲み取り、市民にやさしい市川市にしていきたいものです。

(注)

(※1)バリアフリーとは、語源的には「障害、障壁のない」という意味から、一般的には、障がい者を含む高齢者など社会的弱者が無理なく生活できるように、物理的な障害や、精神的な障壁をなくすための施策、または具体的に障害を取り除いた状態を指します。

(※2)オストメイトとは、直腸がんや膀胱がんなどが原因で臓器に機能障害(内部障害のひとつ)を負い、手術によって人工的に腹部へ人工肛門や人口膀胱の「排泄口(ギリシャ語でストーマ)」を造設した人を指します。このオストメイトは国内に約20~30万人、千葉県には9,202人(65歳以上7,200人)いるといわれ、市川市のその数は589人(平成28年3月31日現在)となっています。



ほそだ伸一 事務所

〒272-0031 市川市平田 2-19-8-101

【TEL】047-371-3257 【携帯】090-7227-2107

【e-mail】hosodashinichi0316@gmail.com

HP <http://www.ほそだ伸一.com>

fb <https://www.facebook.com/shinichi.hosoda.16>



ほそだ伸一へ
メールする